

母親 バイト先2カ所クビに 高校生 進学希望言えず

コロナ あしながが遺児苦境

「腐ったレタスの中から、わずかに食べられる部分を探した」。親を亡くした子どもを奨学金で支援する「あしなが育英会」(玉井義昭会長)は、遺児や保護者にコロナ禍の影響について調査した結果を発表した。そこでは日々の暮らしに困窮する遺児たちの悲痛な声が多く寄せられ、生活面への影響の大きさが浮き彫りになった。また、育英会は対策として奨学生1人あたり20万円の支給を行うことも合わせて公表した。

「あしなが育英会」は、東京都千代田区の一あしなが育英会(本部)で記者会見を行い、アンケートによる調査結果と緊急支援策を発表した。アンケートは今年10月11日、同会の奨学金を利用する高校生と大学生、その保護者を対象に実施し、計6241人から回答を得た。

調査によると、保護者の36.7%が「コロナ禍によって収入が減った」と回答した。支出を抑えるために行っていることを複数回答で尋ねたところ、57%が「食料の回数を減らす」、親の食べるものを減らす等して食費を抑えている」と答えた。交際費や光熱費を切り詰めるという回答は、それぞれ6割に上った。

回答した保護者のうち母親は8割に達し、年齢層は9割が40〜50代。就業形態を問うと、派遣などの非正規職やパート・アルバイトが4割を占めた。不安定な就労状況にある家庭が多く、生活を切り詰めて支出を抑えている状況が浮かび上がってくる。

また大学生でも、感染拡大前後の今年10月と9月を比較し、バイト代が「減った」、あるいは「なくなっ

育英会 1人あたり20万円支給へ

50代母親)
▶「バイトを三つ掛け持ちしていたが、コロナで2カ所はクビになった。将来はないと感じる」(長崎県・40代母親)
▶「進学したいが母に言えない」(香川県・高校2年)
▶「仕送りがバイトもなく、貯金を取り崩して生活。1日1食しか食べないようにしている。皮膚科や歯医者に行くことをあきらめている」(埼玉県・大学3年)
▶「両親はおらず、祖母が自営店のわずかな収入で支援してくれているが、高齢のため、感染で命の危険にさらされるリスクがある。家族がお金のために健康で安全な生活を送ることができなくなるのがとても不安」(兵庫県・大学2年)

アンケートの自由記述欄には厳しい現実を苦しむ声が寄せられた。
▶「子供は育ち盛りで食費はこれ以上削れず、私は88円のふりかけご飯を食べたりしている。農家の人から出荷できない野菜を破棄する袋ごともらった。虫だらけで、溶けて腐ったレタスの中から、食べられるわずかな部分を探しながら涙が出た」(埼玉県・40代母親)
▶「1カ月に7社に応募したが、内定をもらえない。最後に頼るのは私の生命保険」(青森県・40代母親)
▶「お金が足りず、子供たちも退学かもしれない。家も追われるかもしれない。いつ生活が途絶えるかがすごく不安」(東京都・

たとの回答が50.4%に上った。また、コロナ禍の影響を複数回答で尋ねると、「被服費を削っている」(38.2%)▽「勉強などに関わる



記者会見で遺児奨学生の現状を訴えるあしなが育英会大学奨学生の岡本蓮さん(左)ら(東京都千代田区)11月

出費を減らしている」(27.9%)▽「食事を我慢している」(22.3%)。また、25%の大学生が「今年度に入り退学を考えたことがある」と答えた。

あしなが育英会はこうした声を受け、奨学生7612人に対して1人20万円の一時金支給を決めた。緊急支給は今春に続き、度目の実施。原資は奨学金運用のための積立金で、これを取り崩して支給する。

今年にはコロナ感染拡大により、各地で行ってきた街頭募金が十分に実施できていない。玉井会長は「(コロナ禍での)経済状況の悪化で、自殺者が増えてきているが、あしなが育英会の支援家庭からは絶対に自殺者を出さないことを誓いたい」と強い口調で語った。【塩田彩、写真も】